

なごやサイエンスパーク Bゾーン整備構想について

名古屋市

目 次

1. はじめに	1
(1) 目的	
(2) 「なごやサイエンスパーク事業」の概要	
(3) これまでの経過と進捗状況	
2. なごやサイエンスパークBゾーン整備構想	3
(1) 整備方針	
(2) 構想図	
(3) 整備内容	
3. Bゾーンにおける医療福祉機器等の開発促進の考え方	7
(1) 医療対応型特別養護老人ホームと立地企業との連携による機器開発	
(2) なごやサイエンスパークにおけるゾーン間の連携の推進	
(3) 連携のための支援体制	
4. 事業の推進に向けて	8
(1) 整備の手法	

1. はじめに

(1) 目的

この構想は、ものづくり産業を支える研究開発拠点を形成し、産学行政等が連携して研究開発を促進することにより地域の持続的な発展をめざすことを目的とする「なごやサイエンスパーク事業」の拠点のひとつであるBゾーンについて、その整備の方向性を示すものです。

(2) 「なごやサイエンスパーク事業」の概要

本市では自然環境と共生した都市づくりと、新しい科学・技術を追求、発信する地域として、守山区志段味地区にヒューマン・サイエンス・タウンの実現を目指しています。

その志段味地区に、本市が整備を進めている「なごやサイエンスパーク」は、世界有数のものづくりの中核圏域である名古屋圏の中心都市である本市において、ものづくり産業を支える研究開発拠点を形成し、産学行政等が連携して研究開発を促進することにより地域の持続的な発展をめざすことを目的としています。

(3) これまでの経過と進捗状況

「なごやサイエンスパーク」はA、B、Cの3つのゾーンで構成されています。

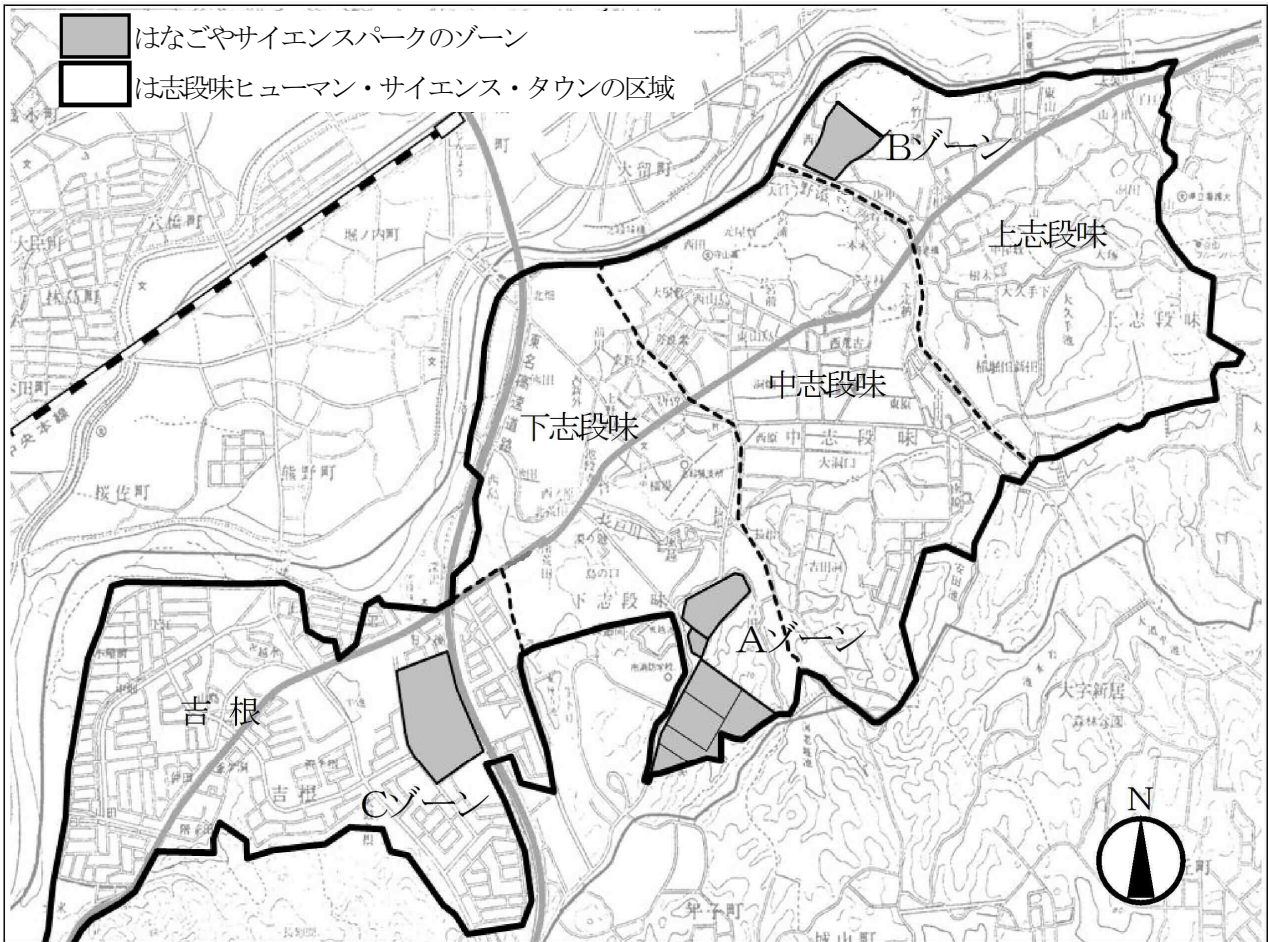
Aゾーンは、公的研究機関を集積したゾーンであり、平成9年度に特定国立研究開発法人理化学研究所や地域の研究機関が研究開発を行う「研究開発センター」が開館したのをはじめ、産学行政等が連携して研究開発を行う「先端技術連携リサーチセンター」、特定国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センターが開館しています。

そのほか、独立行政法人中小企業基盤整備機構が運営する新産業創出に取り組むベンチャー企業・中小企業等を対象とする賃貸施設「クリエイション・コア名古屋」、地域の研究機関、大学、企業等の交流の場である「サイエンス交流プラザ」や、市民の健康を守るための科学的拠点として、感染症対策・食品・生活環境などの分野で検査業務や調査研究を実施している「名古屋市衛生研究所」が開館しています。

Cゾーンは、研究開発型企業の集積を図るゾーンであり、Aゾーンに集積する公的研究機関の研究成果等を地域産業に波及させるため、「テクノヒル名古屋」の名称で、民間企業向けに事業用地の提供を行っています。医療・福祉、環境、情報通信、新製造技術関連など今後成長が見込まれる先端的産業分野における研究開発型企業を誘致し、令和2年5月1日現在、21社が立地、全区画の契約が完了しています。

残るBゾーンについては、大学・研究機関等の集積を図るゾーンとして誘致を進めてきましたが、その方向性を変更し、今後成長が見込まれる医療・福祉・健康産業の振興を図るゾーン（なごやライフバレー）として整備し、研究開発型企業等を誘致しています。

(図表 なごやサイエンスパークの全体計画及び進捗状況)



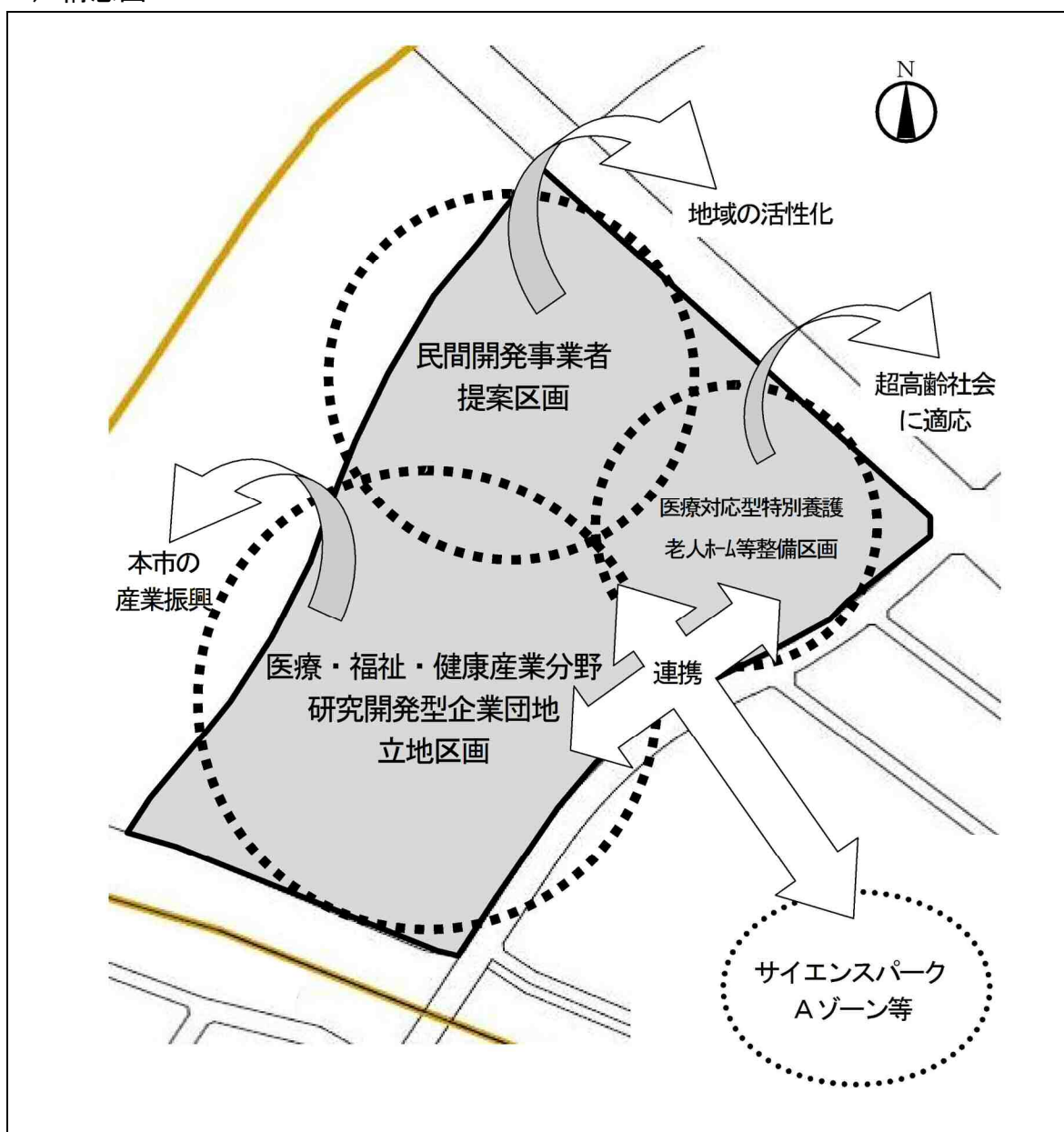
ゾーン名	施設内容等
A	公的研究機関等の集積 ・研究開発センター 平成 9年 5月開館 ・先端技術連携リサーチセンター 平成11年11月開館 ・産業技術総合研究所中部センター 平成13年11月開館 ・クリエイション・コア名古屋 平成14年 4月開館 ・産業技術総合研究所中部産学官連携研究棟 平成15年11月開館 ・サイエンス交流プラザ 平成16年 5月開館 ・名古屋市衛生研究所 令和 2年 4月開館
B (なごやライフバレー)	医療・福祉・健康産業分野の民間の研究開発施設、福祉施設等の集積
C (テクノヒル名古屋)	民間の研究開発施設等の集積

2. なごやサイエンスパークBゾーン整備構想

(1) 整備方針

ものづくり産業を支える研究開発拠点を形成し、産学行政等が連携して研究開発を促進することにより地域の持続的な発展をめざすことを目的とする「なごやサイエンスパーク事業」の拠点のひとつとして、今後成長が見込まれる医療・福祉・健康産業の振興等を図るゾーンを整備する

(2) 構想図



(3) 整備内容

区 分	主 な 内 容
医療・福祉・健康産業分野研究開発型企业団地立地区画	<ul style="list-style-type: none">・ 今後成長が見込まれる医療・福祉・健康産業分野の研究開発型企业を誘致し、当産業分野の活性化を図る・ 研究開発型企业が医療対応型特別養護老人ホーム等との連携(現場ニーズの収集、モニター調査等)、なごやサイエンスパーク Aゾーンの公的研究機関等との連携を図ることで、革新的な医療福祉機器等の開発を促し、本市の産業振興等に寄与する
医療対応型特別養護老人ホーム等整備区画	<ul style="list-style-type: none">・ 超高齢社会に適応するため、医療対応型特別養護老人ホームを中心に、介護職員の実習の場、24時間対応型の訪問介護・看護の事業所等を誘致する
民間開発事業者提案区画	<ul style="list-style-type: none">・ 事業提案募集により、民間のノウハウを活かした地域の活性化に寄与する活用を図る

(参考1 健康福祉局において整備を進める医療対応型特別養護老人ホームの概要)

【～ 医療的ケアに対応した特別養護老人ホームの整備等 ～】

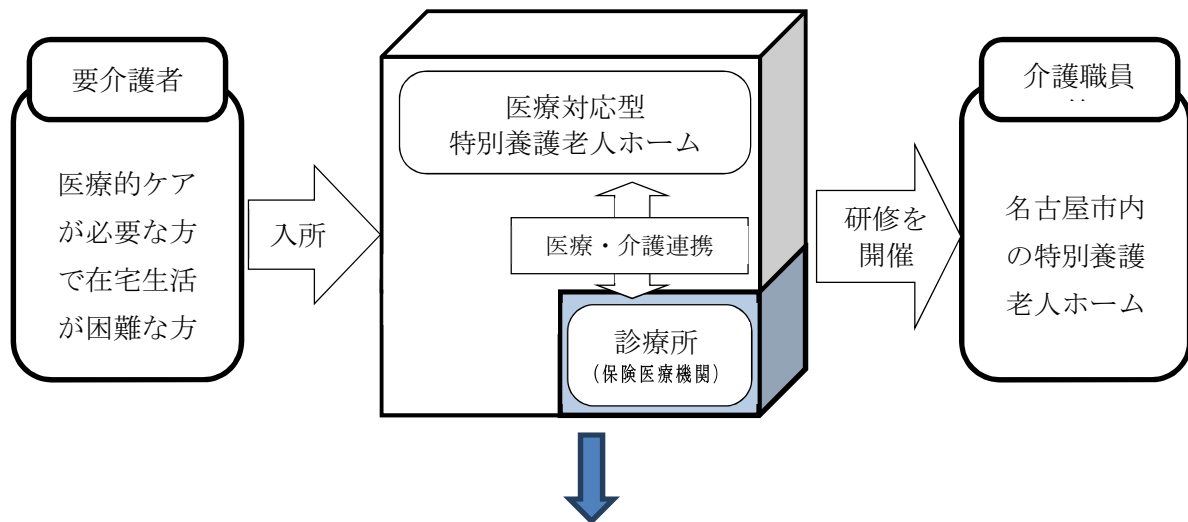
(1) 医療的ケアが必要な方への対応策

- 特別養護老人ホームの利用者が要介護3～5に重点化されること等に伴い、医療ニーズの高い方の住まいの確保が課題となることから、在宅生活が困難な方に対する医療対応型の特別養護老人ホームの整備を進めます。
- 医療対応型特別養護老人ホームは、以下の4要件を満たした特養のことです。
 - ・ 医療機関が併設（条件によっては隣接又は近接も可）されていること。
 - ・ 看護職員を24時間配置していること。
 - ・ 医療的ケアが必要な方を目標値として定員の30%以上受け入れること。
 - ・ 市内特養向けに痰吸引等の医療的ケアにおける研修等を実施すること。
- 既存の特別養護老人ホームにおいても、医療的な知識を習得してもらい、より多くの医療的ケアが必要な方を受け入れてもらうよう働きかけます。

【医療的ケア】

要介護認定調査における特別な医療（点滴管理、中心静脈栄養、透析、ストーマ処置、酸素療法、レスピレーター、気管切開の処置、疼痛の看護、経管栄養、モニター測定、褥瘡の処置、カテーテル）に加え、インスリン注射、痰吸引の14項目

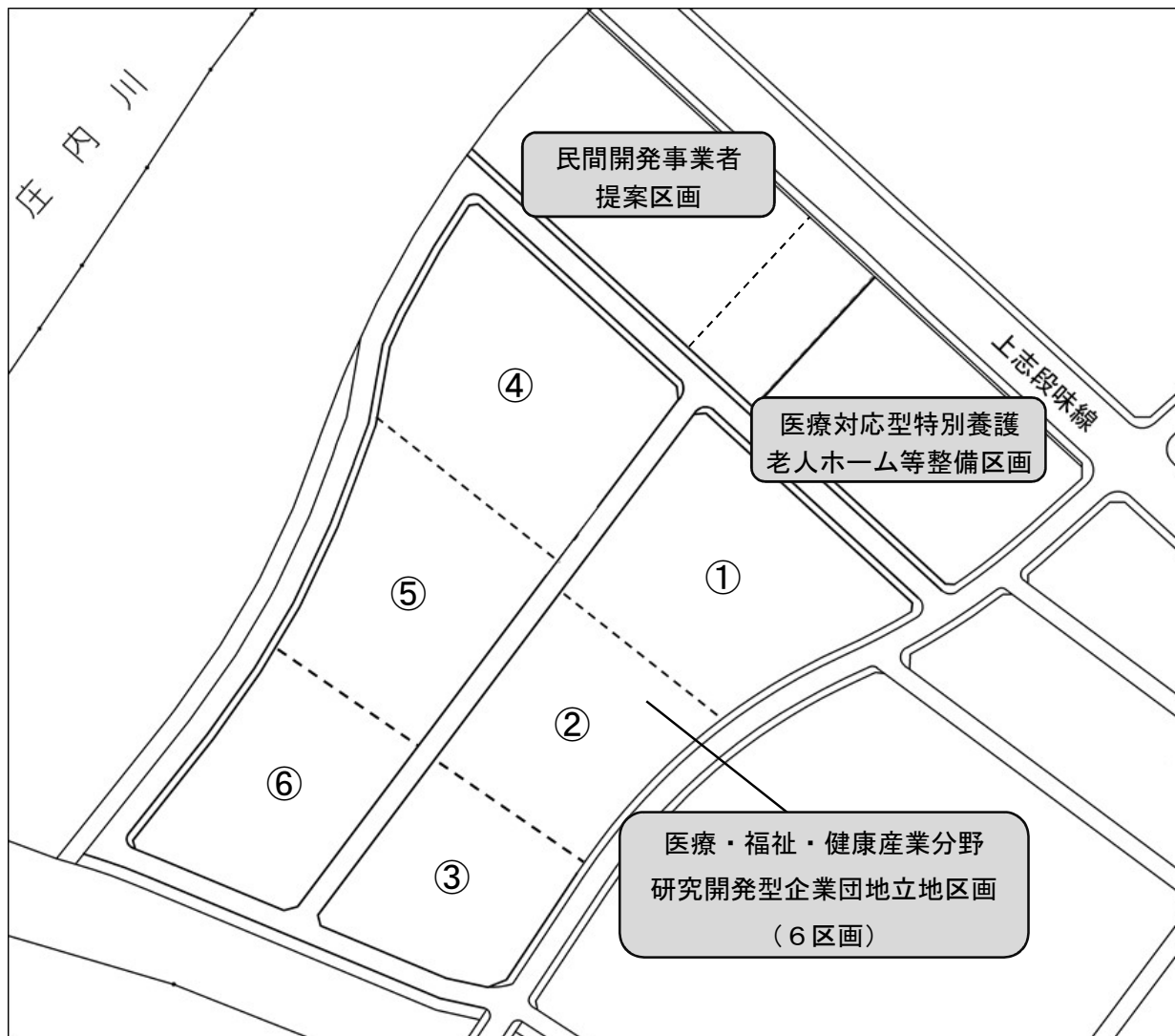
(2) 医療対応型特別養護老人ホームのイメージ



期待される効果

- ・ 医療的ケアが必要な要介護者の特別養護老人ホームへの入所ニーズへの対応
- ・ 名古屋市内特別養護老人ホームの介護職員が医療的な知識を習得すること等による介護の質の一層の向上

(参考2 全体整備予定図)



3. Bゾーンにおける医療福祉機器等の開発促進の考え方

(1) 医療対応型特別養護老人ホームと立地企業との連携による機器開発

医療福祉機器の開発は、その専門性・特殊性から、現場ニーズに合ったものづくりが必要です。一方で、ものづくり企業には、介護現場の状況やニーズを知る機会がないことが、開発の難しさとしてあげられています。そこで、Bゾーンでは、施設と企業の日常的な連携の中で、革新的な機器の開発を目指します。

ア 医療対応型特別養護老人ホーム

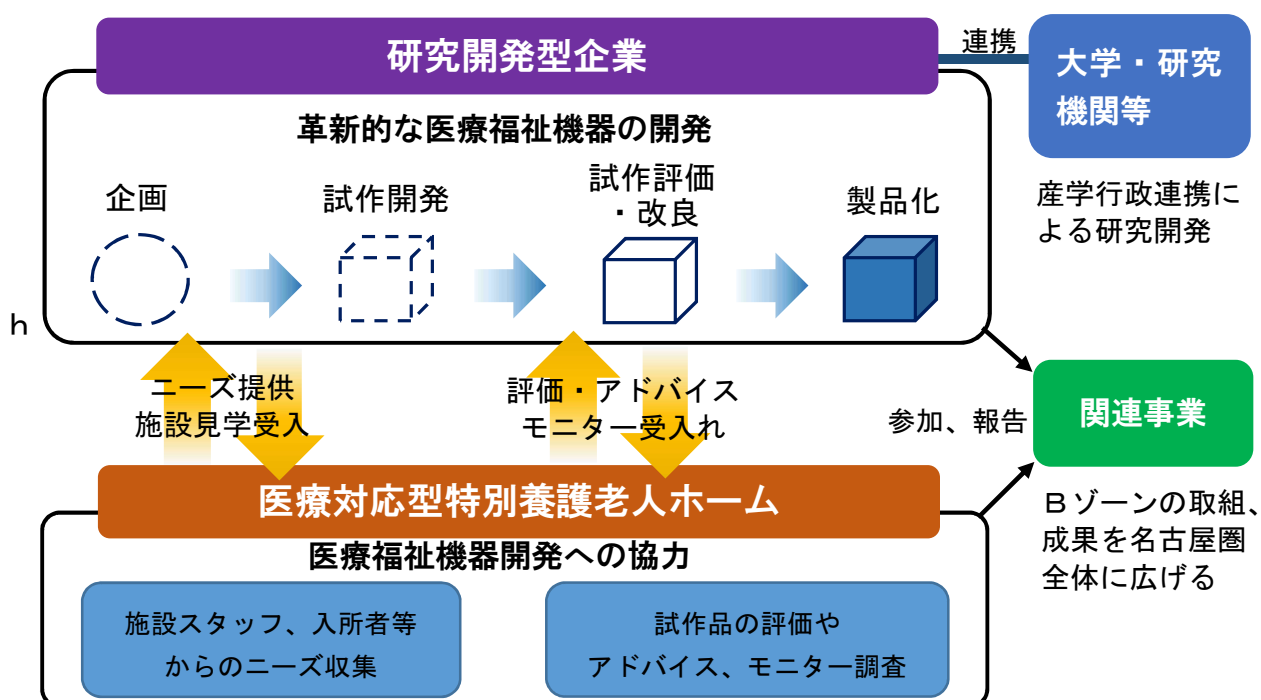
医療対応型特別養護老人ホームは、立地企業等が現場ニーズに合ったものづくりができるよう、ニーズの収集・提供や試作品の現場での評価などを行い、医療福祉機器等の開発に協力します。

- ①施設スタッフ、入所者等からのニーズの収集・提供
- ②施設見学の受入れ
- ③立地企業の試作品の評価やアドバイス、モニター調査の受入れ
- ④本市等が主催する関連事業へ参加するなど、①～③について広域で連携

イ 立地企業

立地企業は、当地域の高度なものづくり技術を活かし、施設の協力を得て、大学や研究機関等との連携を図り、革新的な医療福祉機器等の開発に取り組みます。

- ①産学行政等の連携による先端技術を活かした医療福祉機器等の研究開発
- ②試作品の作成と評価、モニター結果等の反映・改良
- ③本市等が主催する関連事業において、研究開発事例を報告



(2) サイエンスパークにおけるゾーン間の連携の推進

なごやサイエンスパークは、ものづくり産業を支える研究開発拠点を形成し、産学行政等が連携して研究開発を促進することにより地域の持続的な発展をめざすことを目的としています。そのため、なごやサイエンスパークには、様々な公的研究機関や研究開発型の企業等が集積しており、また、これらの機関、企業等と連携するための交流・連携支援機能を備えています。

特になごやサイエンスパーク Aゾーンには、公的研究機関等が集積しており、これまでも当地域の企業と様々な共同研究を行ってきました。Bゾーン立地企業とこれらの研究機関等とが連携を図ることで、先端分野の技術を取り入れた革新的な医療福祉機器の開発を促進していきます。

(3) 連携のための支援体制

なごやサイエンスパークを中心に広く産学行政等の連携を支援するため、Aゾーンのサイエンス交流プラザにおいて、公益財団法人名古屋産業振興公社が連携支援事業を行っています。

Bゾーンの整備に合わせ、介護事業者や医療機関、ものづくり企業、大学、行政機関等が参加する会議を設置し、医療介護機器の開発・評価事例等に対する意見交換や情報共有を図る等、医療介護機器等の高度化を支援します。

4. 事業の推進に向けて

整備の手法

ア 医療・福祉・健康産業分野研究開発型企業団地立地区画

医療対応型特別養護老人ホームとの連携を図るため、順次、立地企業の募集を行います。

イ 医療対応型特別養護老人ホーム等整備区画

本市が定める「第6期名古屋市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づく高齢者福祉施設整備における平成29年度整備着工分「特別養護老人ホーム」施設整備事業者募集に合わせ、事業提案を募集し、平成31年4月に操業しました。

ウ 民間開発事業者提案区画

地域の活性化に寄与できる、民間のノウハウを活かした事業について、民間開発事業者から整備提案を募集します。

令和2年5月

名古屋市経済局イノベーション推進部次世代産業振興課